

デジタル ボイス

メールカウンセリングの現場から

安藤 房子

つい先日のこと。二歳半の娘を保育園に迎えに行き、担任の先生と、園の下駄(けた)箱のことについておしゃべりしていたときのことだった。ふと気付くと、私の娘と同級生の、ある子の名前がなくなっている。どうしたんですかと尋ねると、去年の四月に祖国に帰られたとのこと。そう。その女の子は、日本人ではなかった。どんな事情かは知らないが、ある一定の期間、日本に来ていた韓国の女性のお子さんらしかったのだ。

それにしても、なんという長い期間、その子がいなくなったことに気付かずにはいたのだろうか、できれば最後にあいさつをしたかった。祖国に帰った女の子は、私の娘とよく似た顔立ち、体型だった。隣の席でご飯を食べたりすることも多く、わりと仲がよかったのだ。たまたま一緒に帰ったこともあった。途中、パン屋さんに共に入り、買い物をしたのが最後になっ

てしまった。

実は、娘の園では、クラスの子が退園するときにお知らせをくれない。新しい子が入園したときも、知らせはない。だから、ふと気がつくクラスメイトが二倍くらいに増えていた……などということもあった。個人情報保護の観点から、この園では、保護者名簿も園児名簿も作っていないのである。

保護者会もない。そんな中でも、いつも同じくらいに時間にお迎えに行くお母さんたちと、連絡先を交換することもある。でも、送り時間も迎え時間も違う人とは、ついにあいさつも交わすことがないまま「さよなら」となる。もっ少し、園が情報を開示してくれるほうが、楽しい時間を過ごせる機会

保育士さんが、娘をみてくれていると
きずらある。

思うに、個人情報保護法によって、
地域社会の交流がしにくくなってない
だろうか。それはすなわち、子育て
しにくい社会ということではないか。

実際、私のもとにくる子育て相談の
中には、「地域で友達もできず、子育て
のことを相談する相手もおらず、苦
しんでいる」というものが多い。これ
がたとえば、同じ園のお母さんたちと
気軽に情報交換できるようであれば、
状況は違うだろうに……というケース
が、少なくない。

もっと言えば、お互いのことを知ら
ない状況とは、さまざまな事件が起き
やすい環境とも言える。人間は匿名性
の高い場所にいるときのほうが、凶悪
になりやすいからだ。

たとえば、インターネットで出会っ
た人たちの間に犯罪が多いように感じ
るのには、インターネットというのが匿
名性が高い場所だからではないか。今
個人情報保護法により、私たちの日常
生活さえも匿名社会化しているように
思える。これで、いいのだろうか。

内閣府のホームページによれば、個
人情報保護法は「個人情報の有用性に
配慮しながら、個人の権利利益を保護
することを目的として」いるそうなの
だ。

だけど私は、個人情報保護法が個人
の権利を守っているとは思えない。せ
めて同じ園、あるいは学校に通う人た

ちの最低限の情報くらいは開示してほ
しいと願う。情報があってこそ、さま
ざまなコミュニケーションが生まれる
というものだし、お互いを慈しもうと
いう気持ちが生まれるものなのだ。だ
けど、今日も私の娘は、どの誰の子
かも知らない子たちと遊んでいる。園
でけんかしても、誰としたのかすら
わからない。園でけがをしても、ど
の先生が見ているときのけがなのかを、
容易には知ることもできない。

(恋愛カウンセラー・作家、大江町出身)
毎月第1土曜日に掲載します

個人を守れない 個人情報保護法



が増えるのではないかと
思う。私は、自分の子供
がどの誰といるかを知
りたいし、そのお母さん
たちのことも知りたいの
だ。それに、この園では
保育士さんのプロフィール
や専門分野、その人なり
の持ち味も知らせてくれ
ないのだが、こういうこ
とも、もっと知りたい。
でも、それができない。
一度も会ったことがない